

☆がん研有明病院婦人科 研修のご紹介☆

がん専門病院で研修し、がん診療のチカラを磨きませんか？

がん治療の技術はもちろん、がん診療の総合力を身に着けることを目標にしています。私達、婦人科では約 20 名の医師で診療にあたっています。国内トップの治療症例数ですが、患者さんそれぞれの診断に合わせた治療方針を皆で検討し治療を進めています。多くの患者さんと向き合うことで、がん診療技術の総合力を養うことができます。

- ① 2 年間の研修期間で、婦人科腫瘍専門医、細胞診専門医、内視鏡技術認定医、ロボット手術サーフィティケートの取得はもちろん、婦人科がん診療に必要な技術を徹底して習得していくことができます。
- ② がん薬物療法認定医指導のもとに、婦人科薬物療法を集中的に研修することができます。
- ③ 子育て・介護中の先生方の研修も全力でサポートしています！性別に関係なく、勤務時間の調整、定時内勤務での帰宅といったことにも対応可能です。希望する先生はぜひご相談ください。年間 10 日以上の有給休暇取得、当直明け就業禁止も実施しています。研修期間は 2 年となっていますが、延長希望に対応も可能です。

【子育て中の先生方よりひとこと】

N 先生：癌診療は主治医と患者の関係が密であることや手術時間が長いことなどから、勤務時間に制限のある育児中に携わるとは到底無理だと思っていました。しかし、周囲の方のサポート、環境づくりのおかげで勤務することができています。時間外の仕事など、チームの方々の負担は大きくなりますが、将来的に社会貢献という形で還元できればと考えております。

T先生：私は卒後20年目で、外科医の夫、高校生の長女、中学生の長男と暮らしています。3年前からスタッフとしてがん研で勤務させていただいています。私なりの仕事と家庭の両立について書かせていただきたいと思います。朝は5時30分頃に起床してお弁当作り、朝食、洗濯物などの家事をして7時30分頃に出勤します。帰宅は日によってまちまちですが、20時以降になることもあり、夕食は21時以降になることが多いです。長い手術の日などは疲れて夕食後にソファで寝てしまうこともあります。優先順位の低い洗濯物たたみは平日にはほとんどできず、畳まれていない洗濯物がソファに山積みになっています。このように余裕のない日々を過ごしていますが、がん研での勤務はやりがいがあり、自分としてはとても満足しています。竹島部長をはじめ、他のスタッフの先生方は手術、臨床、研究においてとても素晴らしく、日々多くのことを学ぶことができます。また、全国から来てくださるレジデントの先生方からもたくさんの刺激を受けています。がん研に興味はあるけれども、家庭、育児がハードルとなり難しいと思っている女性医師の方もいらっしゃるかもしれません。家庭環境は人それぞれであり、可能な働き方、必要な支援も千差万別です。現在、がん研では病院をあげて働き方改革に取り組んでおり、それぞれのニーズにあった働き方ができやすい環境となってきました。婦人科腫瘍にご興味のある先生は是非ご連絡ください。

【婦人科手術の紹介】

A先生：がん研究会有明病院婦人科は、開腹手術が多くもともと腹腔鏡手術はほとんど行われていませんでした。しかし、子宮体癌に対する、腹腔鏡手術が先進医療を経て、2014年から保険診療に、子宮頸癌が2018年から保険診療になりました。その影響もあり腹腔鏡手術症例は急速に増え、現在では年間500例前後の症例数にまでになりました。当科での研修は、婦人科腫瘍専門医をとるための修練とともに、日本産科婦人科内視鏡学会の技術認定を取得することも可能です。今後は婦人科腫瘍を専門とする医師も内視鏡の技術は必修項目となると思われます。さらに2018年からロボット補助下の子宮体癌手術も保険適用になりましたが、当科も2019年4月から保険適用での施行となり2019年のロボット症例は50例を超えました。現在がん研究会有明病院では、Intuitive Surgical社のda Vinci Xiが3台稼働しています。欧米での子宮体癌に対するロボット手術の増加の現状を考慮すると、今後は腹腔鏡だけでなく、ロボット症例も確実に増えていくことが予想され、当科では腹腔鏡手術の経験から導かれるロボット手術の安全実施、およびダブルコンソールによる教育指導体制を今後さらに充実させていく予定です。開腹、腹腔鏡、ロボットそれらの多くの症例を経験できる婦人科のプログラムはとても充実したものになると思います。